

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県北会場＞

科目 ⑥障がいのある子どもの理解

- ◆ 障がいのある子どもの特徴を知ることで支援のあり方がどうあるべきかを学ぶ機会となりました。障がいがあるからできないと決めつけるのではなく、得意なことや興味をもって取り組めることを見つけてあげる等、支援をする側の姿勢も見直す必要があると実感しました。支援を必要とする子どもがどうしたいのか、どうすればいいのかを理解して行動ができるように、言葉だけではなく文字を通して伝えていくことも大切だと分かりました。
- ◆ 障がいの概念は医学的モデルから社会的モデルとして捉えられている。それぞれの特徴を知り、周囲の理解と適切な対応の必要性を強く感じた。環境や私たちの対応が子どもに大きく影響することを踏まえ、生活の中で困ることが減り、安定して過ごすことができるようにしていきたい。保護者を取り巻く社会も変化し“孤”育てになっている中で、気持ちのずれが生じることがないよう、傾聴の気持ちと味方であることを感じてもらえるような対応をしていきたい。
- ◆ それぞれの障がいの特性を理解して、難しい事柄はいろいろな支援によって分かりやすくすることが大切だと思いました。また、何かができるようになったら褒めることも、とても大切なことだと思いました。一人ひとり得意なことや苦手なことがあるが、関わり方次第で安心して過ごせるようになると思うので、得意なことや苦手なことを理解し支援していければと思いました。参考になることがたくさんありました。
- ◆ 児童館において、おもに発達障がいと思われるが明確に診断されていない“グレーゾーン”の子どもが多いように感じている。“小学生だからできる”という考え方を捨て、本人に分かる言葉で、見て理解できるように私たち大人の支援、配慮に工夫が必要だと感じた。児童の生活環境を整えることとともに、保護者との信頼関係を築くことが結果的に子どもの支援につながることが分かった。
- ◆ 障がいのある子どもを理解するための基礎的な概念や様々な特性を学び、その特性への周囲の理解や適切な対応の必要性を改めて感じました。実際の演習を通しての理解や、それを踏まえたうえでの体験等は実際の現場で役立てられたらと思います。また、保護者、家族の気持ちを受け止めることへの理解も深め、連携の重要性の再認識にも繋げていきたいと思います。